

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01045

研究課題名（和文）近世イギリスにおける大衆出版と政治文化

研究課題名（英文）Popular print and political culture in early modern Britain

研究代表者

後藤 はる美（Harumi, Goto）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：00540379

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、近世イギリスにおける大衆出版（popular print / popular press）の登場とそれによる政治文化の変容を、公共圏に注目しつつ明らかにすることをめざすものであった。具体的には、17世紀から19世紀初頭までの長期的変化を俯瞰しつつ事例研究を行い、印刷物の製造・流通・受容を一連のプロセスとして検証した。同時に、時事的な出来事に敏感に反応したプレスが、とくに大衆動員という観点で当時の政治文化のなかで果たした役割と、この約2世紀間に起こった大衆出版を軸とした公共圏の成熟・変容を考察することを最終的な目標とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の特徴は、17～19世紀初頭という長期的視座から公共圏の形成と変容を考察することにあった。この点では、検閲体制の崩壊したイギリス革命期、王位継承排除危機期の特殊性とその長期的影響、および18世紀の検閲廃止以降の状況との対比が浮きぼりとなった。他方で、従来の理念型としてのハーバーマス・モデルの再検討からは、17世紀の初期公共圏の基本的に党派的な性格からこそ批判的読者が形成され、民衆の政治参加の機会が与えられたこと、また、18世紀以降により「理性的」な討論の場を志向しつつ公共圏が醸成されるなかでも、政治的宴会にみる「酔い」のような非合理的要素が重要な役割を果たしたことが確認できた。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to shed new light on the emergence of popular print in early modern Britain and its impact on political culture. The main goal of the project was to explore the transformation of the nature of the public sphere from c.1600 to c.1820 by focusing on the process of publication, circulation, and reception of popular print during the period and the impact the popular press had, especially in mobilizing the people for political purposes.

研究分野：イギリス近世史

キーワード：公共圏 メディア 新聞 民衆政治 風刺

## 1. 研究開始当初の背景

近世イギリスにおける出版物の歴史において、1641年ほどよく知られた年はない。アイルランドにおけるプロテスタント大虐殺の鮮烈なニュースは、イングランド内戦への導火線となった。続く政治的混乱のなかで検閲体制は崩壊し、戦況情報への需要も相まって、発行される印刷物のタイトル数は一気に激増した。J. RaymondとJ. Peaceyが検証したように、三王国戦争は大衆出版の展開に支えられた「ペーパー・ウォー」の側面をもっていた。以降、タイトル数の趨勢は、共和政樹立、王政復古、排除危機など、政治危機に敏感に反応した。P. LakeとS. Pincusによれば、この時期はイギリスにおける初期公共圏の叢生期であり、もたらされる情報を取捨選別して読む批判的読者が生まれ始めていた。この公共圏は長い18世紀(c.1688年~c.1820年)において次第に成熟していった。J. Brewerによれば、この時期に政治は大衆化していき、エンターテインメント性を重視する報道や諷刺画も現れた。大衆出版物を史料として用いた研究は、オンライン史料データベースEarly English Books OnlineやEighteenth Century Collections Online、British Periodicalsなどの登場により、近年ますます促進されている。同時に、英語圏では、近世におけるプレス自体を対象とする研究も展開し、『書物の歴史』や『大衆出版文化』のシリーズがその活況を示している。

これらの研究は、商品としての印刷物の製造・流過程に光を当てると同時に、情報の消費と受容の複雑さを明らかにしてきた。こうした海外での研究の進展の一方で、日本においては大衆出版物を史料として用いる研究は数多くあるが、大衆プレスの醸成を体系的にとらえ、民衆を取り巻く新たな政治文化の形成と関係づけた歴史研究はほとんどない(公共圏に注目する大野誠ほかの先駆的研究は重要な例外である)。既存の大衆出版研究は、ジャーナリズムの「発展史」か、検閲の歴史や諷刺を扱う文学研究がまばらにあるのみで、英語圏に大きく遅れている印象である。

## 2. 研究の目的

以上のような研究動向をふまえて、本研究課題は、近世イギリスにおける大衆出版(popular print / popular press)の登場とそれによる政治文化の変容を、公共圏に注目しつつ明らかにすることを目的に定めた。具体的な課題は、17世紀から19世紀初頭までの長期的変化を俯瞰しつつ事例研究を行い、印刷物の製造・流通・受容を一連のプロセスとして検証することである。これをつうじて、時事的な出来事に敏感に反応したプレスが、とくに大衆動員という観点で当時の政治文化のなかで果たした役割と、この約2世紀間に起こった大衆出版を軸とした公共圏の成熟・変容を考察することが最終的な目標であった。

## 3. 研究の方法

具体的な作業としては、以下の4つの課題を設定し、各々の事例研究をとおして検証作業を進めた。【課題】17世紀から長い18世紀にいたる大衆出版の趨勢を俯瞰し、変化の契機の見通しを得る。【課題】印刷物の製造・流通・受容を一連のプロセスとして考察する。【課題】民衆の政治動員に際して印刷物がもった役割を考察する。【課題】対象時期における、公共圏の性質と射程、その変化を検証する。

事例研究は、17世紀から18世紀初頭を代表研究者・後藤はる美が、18世紀半ばから19世紀初頭を分担研究者・正木慶介が担当し、意見交換のうえ、後藤が総括する形で遂行した。

また、代表研究者・後藤は本科研を基課題とした国際共同研究加速基金の助成を受けて、2019年には1年間在外研究を行うこととなった。この期間に、イギリス・ケンブリッジ大学を拠点に史資料の収集を行うとともに、2019年9月および2020年1~2月にアイルランド・ダブリン大学トリニティ・カレッジのトリニティ・ロングルーム・ハブ人文学研究所に客員研究員として滞在し、同地に集まる欧米の研究者との意見交換を進めることができた。

#### 4. 研究成果

本研究課題の最たる特徴は、代表研究者・後藤と分担研究者・正木が共同研究として課題に取り組むなかで、17～19世紀初頭の長期的変化を考察することにあった。この点については、とくに検閲体制の崩壊した時期（イギリス革命期、王位継承排除危機期）の特殊性とその長期的インパクト、および18世紀の検閲廃止以降の状況との対比がまず再確認された。また、とくに王政復古期については、印刷所数・流通数の限られる同時期のアイルランドとの比較のなかで、イングランドの初期公共圏の成立を可能にしたロンドンの出版環境の特殊性が浮きぼりとなった。

他方で、先行研究の体系的な検討からは、従来の理念型としてのハーバーマス・モデルの射程や、公共圏／公衆の合理性と単一性、公共圏の構造的な限界（排除）の問題が、研究の深化のための重要な着眼点となった。とりわけ、17世紀の初期公共圏の基本的に党派的な性格からこそ、批判的読者が形成され、かつ「民衆」の政治参加の重要な機会が提供されたこと、また、18世紀以降に本格的な公共圏が、より「理性的」な議論の場を志向しつつ展開するなかでも、政治的宴会にみる「酔い」のような非合理的な要素が無視できない役割を果たしたことが確認できた。また全体として、新たなメディアである印刷出版物を核として形成される公共圏が、近世における民衆の政治動員・政治化のプロセスや、民衆参加型の国家形成において重要な役割を果たしたことが明らかになった。

これらの具体的な様相は、17世紀～19世紀初頭の文脈に即して事例研究を行うことで明らかにされた。その成果は、中間的には2020年3月にオンラインで開催された近世イギリス史研究会例会における後藤・正木の共同研究報告の形で提示した。当日は約60名の参加者を得て活発な意見交換が行われ、さらにここでの議論を発展させた個別の成果を、各自が雑誌論文投稿や論集への寄稿をつうじて公表した。

代表的なものとしては、17～18世紀については、アイルランド反乱（1641年）の証言録の同時代における出版に着目し、活字化の過程で「多声的」な情報が特定の政治的目的に沿って選別／編集、均質化され、「プロテスタント大虐殺」の「ニュース」として議会や世論に影響を与えようとした様子を探った。後藤は『論争的史料と歴史学』、『歴史学研究』1021号（2022年）および、ブリテン諸島の「長い革命」の過程における公共圏のありかたと民衆の政治国民化に関する長期的な展望をまとめた。後藤は『ブリテン諸島における革命』木畑洋一・安村直己責任編集『岩波講座世界歴史 第15巻 主権国家と革命』（岩波書店、2023年）18～19世紀初頭については、19世紀初頭に隆盛した旅籠や居酒屋における政治的宴会に着目し、「酔いの公共圏」という視点から理性的な討論が公論を形成するとするハーバーマスの公共圏論を再検討した。正木慶介「19世紀初頭イギリスにおける「酔いの公共圏」——政治的宴会を中心に」、『歴史学研究』1033号（2023年）がある。

本課題の研究期間の後半には新型コロナウイルス感染症の流行拡大の影響で海外渡航が制限された関係で、複数回の期間延長を認められることとなり、当初の予定以上の時間を要したが、以上のように一定の成果を得て、課題を完了することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 正木慶介	4. 巻 1033
2. 論文標題 19世紀初頭イギリスにおける「酔いの公共圏」 政治的宴会を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤はる美	4. 巻 1021
2. 論文標題 論争的史料と歴史学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Masaki	4. 巻 12
2. 論文標題 The Posthumous Cult of Charles James Fox: Whig Associations in the 1810s	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Leaves	6. 最初と最後の頁 50-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木道也、後藤はる美	4. 巻 22号別冊
2. 論文標題 社会史を再考する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・ウォルタ（後藤はる美訳）	4. 巻 22号別冊
2. 論文標題 分野の境界を越えて 「新しい社会史」と近世イングランドにおける政治文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・モリル（後藤はる美訳）	4. 巻 22号別冊
2. 論文標題 修正主義と「新しい社会史」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 マイケル・ブラディック（後藤はる美訳）	4. 巻 22号別冊
2. 論文標題 「新しい社会史」と文化論的転回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アン・ヒューズ（後藤はる美訳）	4. 巻 22号別冊
2. 論文標題 「喚くふしだらな女たち」 イギリス革命期の女性の行為主体性を概念化する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 135-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェーン・オーマイヤ (後藤はる美訳)	4. 巻 22号別冊
2. 論文標題 1641年 新しいコンテキストとパブリックな視角	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 147-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤はる美	4. 巻 976
2. 論文標題 17世紀ブリテン諸島における礫岩国家・主権・法の支配	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 168 ~ 178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Masaki	4. 巻 37
2. 論文標題 Within the Bounds of Acceptability: Tory Associational Culture in Early-19th-Century Britain	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Parliamentary History	6. 最初と最後の頁 389 ~ 414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1750-0206.12404	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 後藤はる美
2. 発表標題 17世紀イギリスにおける暴力・正当性・公共圏 / Violence, Legitimacy and Public Sphere in Seventeenth-Century Britain and Ireland
3. 学会等名 革命における公論と暴力 / Pen and Sword in Revolutions (東京大学) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keisuke Masaki
2. 発表標題 An 'Intoxicated Public Sphere' in Early Nineteenth-Century Britain: Conviviality, Harmony, and Spontaneity at Political Dinners
3. 学会等名 British Society for Eighteenth-Century Studies, 52nd Annual Conference 2023, St Hugh's College, University of Oxford (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 後藤はる美
2. 発表標題 礫岩のような国家と近世的主権 17世紀イギリスの例から (小シンポジウム3「礫岩のような国家に見る「主権」理解の批判的再構築」)
3. 学会等名 日本西洋史学会第71回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤はる美
2. 発表標題 近世イギリスにおける大衆出版と公共圏 17世紀
3. 学会等名 近世イギリス史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 正木慶介
2. 発表標題 近世イギリスにおける大衆出版と公共圏 18世紀
3. 学会等名 近世イギリス史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 正木慶介
2. 発表標題 フランス革命とイギリス政治文化
3. 学会等名 神奈川大学人文学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Harumi Goto
2. 発表標題 Print, Law and Public Sphere in Early Modern Britain and Ireland: Oliver Plunkett and the Trial by Jury, 1680-81
3. 学会等名 Early Modern History Seminar (Trinity College Dublin) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keisuke Masaki
2. 発表標題 The Construction Projects of the Melville Monument and the Pitt Monument: Edinburgh Tories in the Early Nineteenth Century
3. 学会等名 British Society for Eighteenth-Century Studies, 49th Annual Conference 2020 (St Hugh 's College, University of Oxford) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤はる美
2. 発表標題 17世紀ブリテン諸島における礫岩国家・主権・法の支配
3. 学会等名 歴史学研究会大会（合同部会「主権国家」再考）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 正木慶介
2. 発表標題 19世紀初頭イギリスにおける政治的アソシエーション トーリ系結社と公共圏
3. 学会等名 名古屋近代イギリス研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keisuke Masaki
2. 発表標題 Celebrating the Fox Dinners: The Whig Party 's View of Politics
3. 学会等名 British Society for Eighteenth-Century Studies, 48th Annual Conference
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 後藤はる美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 「ブリテン諸島における革命」木畑洋一・安村直己責任編集『岩波講座世界歴史 第15巻 主権国家と革命』	

1. 著者名 正木慶介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 222
3. 書名 「イングランド・ジャコバンと「王のいる共和政」」中澤達哉編『王のいる共和政：ジャコバン再考』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	正木 慶介  (Masaki Keisuke)  (00757172)	神奈川大学・外国語学部・准教授    (32702)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 革命における公論と暴力 体制変革のグローバル比較 / Pen and Sword in Revolutions: A Global Comparison	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Peoples and Revolutions 3: Rethinking Seventeenth-Century British History	開催年 2019年～2019年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関